

【単年度事業評価様式】

港北区地域子育て支援拠点事業
令和4年度重点目標評価結果・令和5年度重点目標

事業実施期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日(3年度目／5か年度)
事業の実施者	NPO法人びーのびーの 港北区こども家庭支援課
事業目的	市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。 【事業・施設運営の基本理念】 1 港北区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営 2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営 3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営 4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営 5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関与することができる視点に立った運営 6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営
事業の内容	1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業) 2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業) 3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業) 4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業) 5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業) 6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業) 7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。 2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。

令和4年度重点目標の評価

令和4年度重点目標①	子育て支援に関わる区内全体での人材育成の基盤づくりの構築
取組内容	●子サポ予定者研修を入り口とした、区内全体での子育て支援に関心を寄せる層への研修体制を関係機関との協働により確立し、地域人材の活動の裾野を拡げる。 ●関係機関や教育分野との連携をはじめ、20代の学生や子育て支援に関心が薄い層に対しても、現状課題や親子の預かりニーズ、具体的な事例など共有し、事業理解の促進を強化していく。 ●研修の一部オンライン化、近隣区やブロックごとの支部合同開催を企画するなど、研修受講の機会を増やしていくとともに、これまで開催していなかった地域や多様な層が集う場での試行実施を行い、効果検証していく。 ●区内の一時預かり事業に関わる事業者間で、相談傾向や預かりニーズを共有し、研修内容にも取り入れていくとともに、相互に連携しあえる関係性を構築していく。
取組の成果	○子サポ提供会員に加え、広く活動できる人材育成を目指した拡大予定者研修会を試行実施した。若い世代への働きかけとして、区内全小学校に提供会員募集のちらしを配布し、学生層を含む関心を持つ人の参加に繋がった(参加者85名)。 ○子サポ入会説明会を定期開催・オンライン開催することによって、近隣区の北部4区の支部で予定者研修会を開催した。横浜市の事業として、協働開催する意義を確認するとともに、参加者にとっての研修受講の機会を増やした。 ○区内で一時預かり事業を行っている施設関係者との情報共有の場を持った。親子の現状に加え、受入の際の環境面を含めた対応等について情報交換した。ひろば事業や一時預かり事業の特徴や実態を知る機会ともなり、それぞれに紹介し合える関係性を構築することができた。 ○子サポ提供会員・両方会員として、登録後間もない会員に対して、活動できる場としてひろばプログラムの保育を担当してもらおうなど、活動の裾野を拡げる機会や拠点の事業理解にも繋がった。

取組の課題	<p>○横浜子育てサポートシステムの提供会員の増加が図れるよう、いろいろな機会を活用して、ボランティア募集の発信をしていく。</p> <p>○関係機関と人材育成について連携を深められるよう検討する機会が必要</p> <p>●提供会員の高齢化を踏まえ、20代からの担い手としての提供会員登録の工夫が必要(予定者研修の一部オンライン化の活用等)。</p> <p>●子育て分野に加え、関係機関との連携のもと、高齢や障がい分野においても分断されずに活動に興味を持った方への活躍機会の構築。</p>
-------	--

令和4年度 重点目標②	<p>多様な対象者に応じた「親になる前の支援」の充実を図るとともに、学生、子育て当事者、地域住民などみんなで子育てできる環境づくりを行う。</p>
取組内容	<p>●これまでの土曜両親教室に加えて、新たにプレパパ向け、第2子向けの親になる前の準備の教室を実施する。</p> <p>●大規模マンションでの転入者が多いエリアで0歳児向けの交流プログラムを試行実施し、当事者とともにコミュニティづくりを行う。</p> <p>●中学校などでのふれあい体験を継続し、これから親になる世代に向けて子育ての魅力を発信する</p>
取組の成果	<p>○これまでの妊娠期事業に加え、親になる前の支援事業を通して、父親支援や第2子家庭に向けたプログラムを実施することで、これまで関わりを持ちづらかった層に向けても、アプローチすることができた。</p> <p>○社会資源が不足している地区にて、民間企業、保育園、子育て支援関係者と地域資源や子育て家庭の現状課題を共有したことで、出張ひろば事業やプログラム実施に繋がった。場での支援関係者の関わり等の必要性について働きかけを行ったことで、地域支援に向けての方向性を確認することができた。</p> <p>○近隣の小学校・中学校、市立高校からの依頼を受けて、乳幼児家庭とのふれあい体験事業を実施した。利用者親子からの経験談や乳幼児とのふれあいを通して、生徒が親になるイメージや子どもを愛しいと思える気持ちを伝えてくれたことで、次世代育成の観点からも開催意義を学校とも共有することができた。</p> <p>○子育て支援に関心を寄せる層を増やしていくために、子育て家庭の現状や拠点の事業説明をする機会を持ち、港北区老人クラブ連合会や地元企業とも連携することで、ひろば利用者向けに手作りおもちゃを作成してもらった等の理解と協力を得た。</p>
取組の課題	<p>●オンラインを含む両親教室等で繋がった妊娠期家庭を地域の社会資源の場に繋いでいくための区全体としての仕組みが必要。</p> <p>●近隣小学校・中学校等とのふれあい体験授業の効果・成果の積み上げとともに、取組の再開に向けた更なる情報共有。</p> <p>●就労家庭が増えていく中で、誰もが地域に関われるような工夫とアイデアの創出。</p>

令和4年度 重点目標③	<p>港北区内の情報の一元化と多様な層に向けた情報発信の構築</p>
取組内容	<p>●行政をはじめ、拠点や各機関から発行している情報関係の発行元を含めた紙媒体の実態把握と子育て家庭に届ける情報の一元化を図るため、整理・検討する。</p> <p>●区内産婦人科や小児科、薬局等とも、妊娠期からの切れ目ない支援として情報共有の場を持ち、これまで設置していた情報ファイルを更に利用しやすい形態で届けていく。</p> <p>●SNSを活用して、区域の子育て情報や現状を効果的に届ける仕掛けを考案し、幅広い層に向けて子育て・子育てへの関心を促進する。</p> <p>●子育ての社会資源が必要とされているエリアで、子育て情報発信の在り方や場づくりを検討していく。</p>
取組の成果	<p>○コロナ禍での感染状況を鑑みながら、利用者・担い手に向けた情報発信のオンライン化を推進したことで、来館しづらい層に向けても利用につなげることができた。</p> <p>○妊娠期から役立つ情報として、妊娠期から子育て中の家庭に向けた現状のちらしなどの紙媒体のツールの整理を行ない、他ツールとのすみ分けができるよう、WEB版での一覧を作成した。</p> <p>○SNSの活用により、拠点プログラム等の報告を通して開催意義や背景、成果などを幅広い層に向けて広く発信することで、効果的に届ける仕組みを構築した。</p> <p>○地域子育て支援拠点利用者のスキルや意向を取り入れながら、ホームページの大幅な改訂をしたことで、スマートフォンでも見やすいデザインにした。見やすくなったことでアクセス数や問合せも増えた。</p> <p>○SNSによる情報発信の強化、コロナ禍での情報収集の手段としてココアプリによる開催変更SNSを活用することで、区民に向けて即時的な対応をすることができた。</p> <p>○ココアプリの安定的な運用により、区内の様々な子育て情報を幅広く提供できた。</p> <p>○乳幼児健診や訪問、窓口等でどろっぷのチラシを活用し積極的に事業の周知を行った。子育てパートナーについて広報に掲載しPRを行った。</p>

取組の課題	<p>○乳幼児健診、訪問、窓口の相談等で拠点の案内を引き続き行う。こんにちは赤ちゃん訪問員や子育て支援者等の担い手に紹介してもらえるよう関係機関も含め、拠点で行っているイベントや事業について周知をしていく。</p> <p>○子育て層がどのような情報を必要しているか、4か月健診アンケートだけではなく主任児童委員や地域ケアプラザのサロンなどからも情報を得ながら把握していく。</p> <p>●多様化した情報(紙媒体、他ツールなど)の実態把握と子育て家庭に届ける情報の一元化を目指した、情報の整理が必要。</p> <p>●既存の情報発信ツールについて、更に利用しやすい形態や現状に合わせた更新、バージョンアップが必要。様々なスキームを活用し、子育て家庭が必要としている情報のニーズ把握が必要。</p> <p>●地域の担い手から養育者に情報を届けるために、拠点の事業内容や区内子育て情報について、SNSを併用しながら定期的な情報提供が必要。</p>
-------	---

次年度重点目標

令和5年度重点目標	新制度に基づく子サポ事業の周知強化と街づくりを目指した人材づくり
取組内容	<p>●市域での事業周知に努めるとともに、令和4年度に試行実施した子サポ拡大予定者研修との連動による、区内全体での子育て分野に関わる研修を関係機関とも協働・連携し、実施する。子育て分野に加え、高齢分野や障がい分野においても分断されず、活動に興味を持った方への活躍の機会を横断的に仕組みとして構築していく。</p> <p>●20歳代からの提供会員としての登録へのアプローチや、学生のボランティア活動の場としても継続実施し、学生がひろば預かりを試行実施する等、預かりの敷居を下げるとともに仕組みを検討・構築する。</p> <p>●企業や子育て支援に関係の薄い層にも、「子育て応援隊」缶バッジの啓発普及活動等を通して、具体的に子育て支援に関わるメニューや機会を提案していく。</p> <p>●制度を利用する側から担い手側への関心や循環を促していくとともに、多様な担い手の活躍の場の裾野を拡げ、多世代との連携を通して、地域の活性化や子育てに優しい街づくりを目指していく。</p>
令和5年度重点目標	多様な主体との協働によるアウトリーチと地域に根ざした出張ひろば事業の更なる定着
取組内容	<p>●ひろば事業を通して、利用者同士、地域の支援関係者との関係性を育んでいくとともに、利用家庭を丁寧に取り入れていく基盤を支援関係者と整え、他社会資源との繋ぎを相乗的に行っていく。</p> <p>●拠点と接点を持ちつらい層へのアプローチとして、多様な主体との協働によるネットワークを構築し、子育ての情報発信を含めた場づくりを推進していくとともに、近隣保育園、親と子のつどいの広場等との連携によるプログラムの合同開催や外遊び企画なども検討・実施していく。</p> <p>●自治会町内会で開催している地域行事やイベント等を案内し、地域との接点を持つことで地域が一体となって子育てを応援しているメッセージや地域で育つイメージ等を感じてもらい、地域への愛着に繋げる。</p> <p>●子育てネットワーク会議を定期的に行い、事業の効果検証を行うとともに、地域の課題共有や効果・成果を自治会町内会、支援関係者と共有し、地区での更なる理解と定着を図れるよう推進していく。</p>
令和5年度重点目標	親になる前の支援事業の充実と子育て世代包括支援センター機能の構築
取組内容	<p>●母子保健コーディネーターと横浜子育てパートナーとが連携し、伴走型相談支援の充実を図ることで、産前産後の現状課題を踏まえ、必要な取組をそれぞれの立場で推進、共有していく。その家庭にとって必要な場や人への繋ぎ、制度やサービス等の情報を届け、妊娠期から産後すぐの家庭への支援を更に強化していく。</p> <p>●「4か月児健診調査」の効果検証等を産前産後支援に関わる専門職、関係機関、支援関係者とともに共有し、妊娠期から安心して産み育てられる環境づくりや具体的な仕組みづくりを検討、展開していく。</p> <p>●第2子向けや父親向けプログラムを継続実施することで、出生数が多い区であるため、これまで関わりを持ちづらかった層に向けても更に支援を強化していく。</p> <p>●各地域の子育て支援関係者(主任児童委員や子育て支援者、親と子のつどいの広場、区社協等)との連携のもと、区内小学校・中学校とのふれあい体験授業を通して、学生が乳幼児家庭とふれあうことで、親になるイメージや子育てへの肯定意識を育むなど、効果・成果を学校や支援関係者とも共有し、取組を拡げていく。</p>